

■都市づくりの課題 【交通分野】

継続的に対応すべき課題（現行計画の評価）

○現行計画における基本的な方針

- 方針①：道路の位置付けを明確にし、人が中心となる交通体系化を図ります。また、自然や生活環境に配慮した交通需要管理の在り方を検討します。
- 方針②：まちの自立を促進し、交流の基礎となる道路の整備など、交通網の骨格づくりを進めます。
- 方針③：住宅地内の生活道路については、地域特性に応じた整備を進めます。
- 方針④：交通利便性の向上のため、公共交通体系の充実を図ります。
- 方針⑤：自転車をひとつの交通手段として位置付け、走行環境等を整備します。

○「交通」に関する現況・主な取組と成果 ※「調布市の基礎データ」より

- ◇平成 18（2006）年から平成 30（2018）年までの 12 年間における都市計画道路の整備率は約 43%から約 53%へと向上。（基礎データ_P29 参照）
- ◇規格改良済の道路延長割合は約 6 割。車道幅員が 3.5m未満の未改良道路は平成 21（2009）年から平成 29（2017）年までの 10 年間で約 3%減少し、27.5%に改善。（基礎データ_P31 参照）
- ◇一部地域において徒歩利用圏外となるエリアが存在するものの、市内のおおむねの範囲でバスが利用しやすい状況。柴崎駅周辺等の一部地域において徒歩利用圏外となるエリアが存在。（基礎データ_P33 参照）
- ◇平成 30（2018）年から自転車ネットワークを整備。（基礎データ_P36 参照）

○継続的に対応すべき課題

<方針①・④・⑤関連>

- ✓人中心の移動・交通環境の形成
- ✓公共交通（鉄道・バス）の利便性の維持・充実
- ✓自転車利用環境の整備・改善

<方針②・③関連>

- ✓幹線道路・生活道路の更なる整備改善
- ✓幹線道路ネットワークの形成

新たな課題（上位計画や社会情勢の変化に伴う課題）

<上位関連計画に基づく政策的課題>

（総合計画、その他関連計画を参考に作成）

- ✓高齢化を踏まえた公共交通網の形成
- ✓徒歩や自転車、自動車が利用しやすい環境の整備
- ✓環境に配慮した交通環境の整備
- ✓観光拠点におけるアクセス性・利便性の向上
- ✓災害時における避難路の確保
- ✓中心市街地活性化に寄与する回遊性を高める道路網の形成

<多摩川流域における 広域的視点による課題>

- （近隣自治体の都市マス等を参考に作成）
- ✓隣接市の拠点間を結ぶ交通ネットワークの維持・充実

<新たな政策課題・まちづくりのトレンド>

（国資料等を参考に作成）※詳細は次頁

- ✓居心地がよく歩きたくなる通りの形成
- ✓公共交通と連携した居住や都市機能の集積
- ✓自動運転バスやデマンド交通, MaaS, シェアサイクルなど多様な交通手段の確保

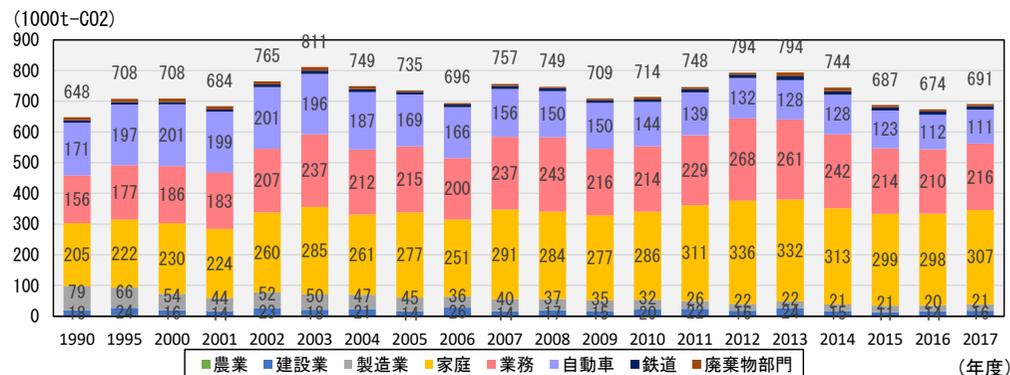
■都市づくりの課題 【環境分野】

○現行計画における基本的な方針

- 方針①：武蔵野の限りある水と緑の環境を積極的に守り育て、調布らしさを発揮します。
- 方針②：農地を守り生かし、安らぎのあるまちづくりを進めます。
- 方針③：循環型の都市づくりを進めます。
- 方針④：自然とふれあう、水と緑のネットワークづくりを進めます。

○「環境」に関する現況・主な取組と成果 ※「調布市の基礎データ」より

- ◇ 神代植物公園等の都市公園の一部が開園、一人当たりの公園面積は都内で標準的な水準。(参考資料_P37 参照)
- ◇ 平成5(1993)年以降、緑被率は37%から約31%まで減少。(参考資料_P38 参照)
- ◇ 平成9(1997)年から平成29(2017)年までの20年間で自然的土地利用面積が約10ha減少。(参考資料_P39 参照)
- ◇ 生産緑地地区の地区数及び面積は、市内に広く分布するものの年々減少傾向。(参考資料_P40 参照)
- ◇ 二酸化炭素排出量は、平成25(2013)年をピークに減少に転じ、平成27(2015)年以降は70万t-CO₂を下回る。
- ◇ (参考資料_P62 参照)
- ◇ 市内の東西南北4カ所で散歩コースを設定。(参考資料_P35 参照)



調布市における部門別二酸化炭素排出量の推移
資料：多摩地域の温室効果ガス排出量（平成2（1990）年度～平成29（2017）年度）

○継続的に対応すべき課題

<方針①・②関連>

- ✓市内のみどりの維持・保全

<方針③関連>

- ✓二酸化炭素の更なる削減
- ✓「低炭素なまち ちょうふ」の実現

<方針④関連>

- ✓豊かな地域資源の活用
- ✓水と緑のネットワークの形成

②新たな課題（上位計画や社会情勢の変化に伴う課題）

<上位関連計画に基づく政策的課題>

(総合計画, その他関連計画を参考に作成)

- ✓公園, 里山, 都市農地などの水と緑の保全・創出による地球温暖化・自然災害への対応
- ✓次世代交通システム導入等による脱炭素社会・資源循環型の実現
- ✓都市農地と共生する住環境の形成
- ✓生物多様性に配慮した都市づくりの推進
- ✓公園・緑地機能再編指針に基づく公園機能再編の推進
- ✓農地の持つ多面的機能の発揮に向けた取組推進
- ✓深大寺・佐須地域における公有地の農業公園化の検討
- ✓土地区画整理事業等の基盤整備による営農環境の向上

<多摩川流域における広域的視点による課題>

(近隣自治体の都市マス等を参考に作成)

- ✓崖線緑地や農地, 多摩川周辺の景観など, 個性ある景観・みどりの保全

<新たな政策課題・まちづくりのトレンド>

(国資料等を参考に作成)

- ✓気候変動への対応
- ✓自然と共生する社会の実現
- ✓グリーンインフラの取組推進

■都市づくりの課題 【福祉分野】

○現行計画における基本的な方針

- 方針①：子どもや高齢者、障害のある方を含め、すべての人々にとって、住みやすいまちづくりを進めます。
 方針②：ユニバーサルデザインをもとに、安心して使える施設整備を進めます。
 方針③：市民と地域と市が協働して、自立を支えるまちづくり、ふれあいや助け合いの意識づくりを進めます。

○「福祉」に関する現況・主な取組と成果 ※「調布市の基礎データ」より

- ◇バリアフリー環境の整備として、調布駅前広場周辺や狛江通り、品川通りなどで事業中。旧甲州街道及び駅との接続道路等で整備が完了。
 (参考資料_P59 参照)
- ◇飛田給駅周辺地区における道路特定事業は、飛田給駅前広場の整備や調布3・4・33号線、甲州街道等のバリアフリー化は完了。平成31(2019)年3月現在、品川通りの交差点において事業中。(参考資料_P60 参照)
- ◇待機児童は近年減少傾向、学童クラブ入会保留児童数の増加。(参考資料_P36 参照)



道路特定事業の進捗状況(平成31(2019)年3月時点) 資料：調布市バリアフリー特定事業計画

○継続的に対応すべき課題

<方針①・②・③関連>

- ✓公共・民間施設におけるユニバーサルデザイン・バリアフリー化の促進
- ✓保育園などへ安心して通園し、遊べる環境の整備等による安心して子育てできる環境の整備

②新たな課題(上位計画や社会情勢の変化に伴う課題)

<上位関連計画に基づく政策的課題>

(総合計画, その他関連計画を参考に作成)

- ✓鉄道敷地を活用した一体的なまちづくりに伴うバリアフリー空間の整備
- ✓近年の子育て支援ニーズを踏まえた施設等の確保
- ✓地域共生社会を充実させるための総合的な福祉の拠点の整備
- ✓高齢者の健康づくり, 生きがいづくりと, 障害のある方も安心して地域生活を送れるための環境整備
- ✓既存ストックの活用等を視野に入れた多世代交流型の拠点づくりの推進
- ✓福祉タクシーの利用支援等による誰もが移動しやすい環境の整備

<多摩川流域における広域的視点による課題>

(近隣自治体の都市マス等を参考に作成)

- ✓市役所庁舎やコミュニティセンターにおける行政サービス機能の連携

<新たな政策課題・まちづくりのトレンド>

(国資料等を参考に作成)

- ✓オープンスペースの有効活用・充実
- ✓職住近接のまちづくりの推進
- ✓地域社会による子どもの教育・生活環境整備の推進

■都市づくりの課題 【防災分野】

○現行計画における基本的な方針

- 方針①：災害の被害を最小限にとどめ、復旧を迅速に行うために、防災機能の高いまちづくりを進めます。
- 方針②：市民と地域と市が協働して、防災の意識づくり、地域の連携の充実を図ります。
- 方針③：ハード・ソフトの両面から、災害に強くみんなが安全に暮らせるまちづくりを進めます。

○「防災」に関する現況・主な取組と成果 ※「調布市の基礎データ」より

- ◇平成9（1997）年から平成29（2017）年までの20年間で、木造建物棟数の割合は15.8%から7.5%と半減、準耐火造・防火造の割合は増加。（参考資料_P24 参照）
- ◇河川の改修及び下水道の整備率は100%。（参考資料_P41, 42 参照）
- ◇総合危険度については、一部地域で危険度5があるものの、鉄道駅周辺等は比較的危険度が低い。（参考資料_P43 参照）
- ◇多摩川が氾濫した場合、旧甲州街道の南側まで浸水が想定されるとともに、野川・仙川・入間川沿いにおいても浸水を想定。（参考資料_P44 参照）
- ◇10箇所の広域避難場所と32箇所の避難場所を指定。（参考資料_P45, 46 参照）
- ◇令和元年の台風19号によって246世帯が浸水被害、延べ避難者数は約6,000人。（参考資料_P47 参照）
- ◇ハード対策として流出解析業務や水位計の設置などが予定。ソフト対策として土のうステーションを一部で設置、電柱への想定浸水深を表示。（参考資料_P48 参照）



浸水予想区域図

資料：調布市洪水ハザードマップ

○継続的に対応すべき課題

<方針①・②・③関連>

- ✓河川や下水道の計画的な維持管理・予防保全
- ✓市民との協働によるさらなる住宅・建築物の耐火促進
- ✓ハード・ソフト両面からの防災対策

②新たな課題（上位計画や社会情勢の変化に伴う課題）

<上位関連計画に基づく政策的課題>

（総合計画，その他関連計画を参考に作成）

- ✓市内で大規模災害が発生する可能性を見据えた防災・減災対策
- ✓自助・共助の取組の推進
- ✓調布基地跡地（留保地）における防災公園としての整備推進
- ✓公共施設や民間施設を利用した一時滞在施設の確保
- ✓多様な人々のニーズに応じた避難所の整備・運営
- ✓ICTやソーシャルメディア等を活用した多様な情報提供体制の整備

<多摩川流域における 広域的視点による課題>

（近隣自治体の都市マス等を参考に作成）

- ✓多摩川流域・国分寺崖線周辺の防災対策のハード・ソフト両面の強化
- ✓和泉多摩川緑地における都立公園の誘致による広域防災機能の確保（狛江市）

<新たな政策課題・ まちづくりのトレンド>

（国資料等を参考に作成）

- ✓流域全体での治水対策の推進
- ✓安全・安心に住み続けられる住環境の形成

■都市づくりの課題 【住環境分野】

○現行計画における基本的な方針

- 方針①：親しみと誇りをもって住み続けるため、安全で快適な生活空間づくりを進めます。
 方針②：地域のつながりや地域資源を生かした、ふれあいと憩いの場づくり、街並みづくりを進めます。

○「住環境」に関する現況・主な取組と成果 ※「調布市の基礎データ」より

- ◇平成9（1997）年から平成29（2017）年までの20年間において、住宅用地・商業用地等が増加。（参考資料_P15 参照）
- ◇市街地開発事業は6地区が都市計画決定されており、全て事業完了。（参考資料_P17 参照）
- ◇地区計画は、鉄道駅を中心に13地区指定。（参考資料_P20 参照）
- ◇建築協定が6地区、景観協定が2地区、街づくり協定を1地区で締結。（参考資料_P21 参照）
- ◇空き家率は2.2%であり、他の市区と比べて低い水準。
- ◇調布市に住みたいと答えた人の理由として、「都心への交通の便がよい」、「豊かな自然がある」と回答した割合が高い



地区計画位置図資料： 調布市資料

○継続的に対応すべき課題

<方針①関連>

- ✓ 8 学区区における小学校の教室不足

<方針①・②関連>

- ✓ 都市計画制度等を活用した質の高い住環境・街並みの維持・形成

②新たな課題（上位計画や社会情勢の変化に伴う課題）

<上位関連計画に基づく政策的課題>

（総合計画，その他関連計画を参考に作成）

- ✓ 学校施設や住宅等の老朽化対策
- ✓ 既存ストックの活用等による市民一人一人に応じた居住の確保
- ✓ 地域コミュニティの醸成・地域の活性化
- ✓ 地域防災力・防犯力の向上
- ✓ 環境性能の高い住宅の普及促進
- ✓ 市民サービス施設の集約・複合化・多機能化による公共施設の効率化・安定的な運営の推進
- ✓ 施設の長寿命化による財政負担の縮減・平準化
- ✓ 官民連携による市民サービスの質の向上，公共施設の維持管理・運営

<多摩川流域における広域的視点による課題>

（近隣自治体の都市マス等を参考に作成）

- ✓ 隣接市と連携した大規模団地の更新（都市機能の導入，バリアフリー化等）

<新たな政策課題・まちづくりのトレンド>

（国資料等を参考に作成）

- ✓ オープンスペースの有効活用・充実
- ✓ 職住近接のまちづくりの推進
- ✓ 官民連携まちづくりの推進
- ✓ スマートシティの実装
- ✓ 居心地がよく歩きたくなる通りの形成

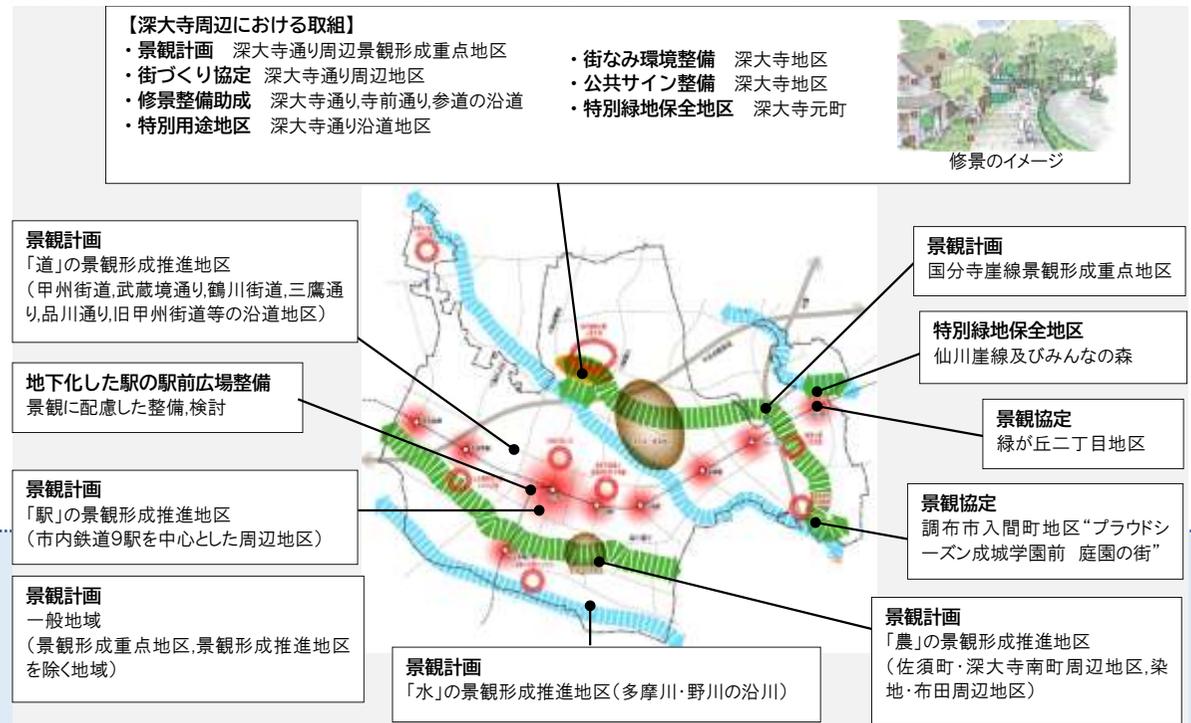
■都市づくりの課題 【景観分野】

○現行計画における基本的な方針

- 方針①：武蔵野の限りある水と緑の環境を積極的に守り育て、調布らしさを発揮します。
 方針②：都市景観に配慮し、うるおいのあるまちづくりを進めます。
 方針③：地域における景観意識の醸成を図ります。

○「景観」に関する現況・主な取組と成果 ※「調布市の基礎データ」より

- ◇ 深大寺周辺地区をはじめ、崖線や河川において、景観計画などに関する様々な取組を実施。(参考資料_P61 参照)
- ◇ 街並み・景観の満足度が上昇傾向、一方で深大寺・差須地域や染地などの農の景観を優れた景観とする割合が低下。(参考資料_P64 参照)
- ◇ 建築協定が6地区、景観協定が2地区、街づくり協定を1地区で締結。(参考資料_P21 参照)



調布市の景観に関する取組

資料：調布市資料

○継続的に対応すべき課題

<方針①・②・③関連>

- ✓暮らしの中にゆとりや潤いをあたえる良好な景観形成
- ✓市民や事業者との協働による景観づくりの推進

②新たな課題（上位計画や社会情勢の変化に伴う課題）

<上位関連計画に基づく政策的課題>

(総合計画, その他関連計画を参考に作成)

- ✓公園, 里山, 都市農地などの水と緑の保全・創出
- ✓届出制度活用による一定規模以上の建築物の規制誘導
- ✓屋上や壁面の緑化等による連続した緑の創出
- ✓オープンスペースの創出等による快適な歩道路空間の景観形成
- ✓地域特性に応じた駅周辺の景観形成

<多摩川流域における広域的視点による課題>

(近隣自治体の都市マス等を参考に作成)

- ✓崖線緑地や農地, 多摩川周辺の景観など, 個性ある景観・みどりの保全

<新たな政策課題・まちづくりのトレンド>

(国資料等を参考に作成)

- ✓民間による市民緑地の整備の促進
(緑地保全・緑化推進法人制度、市民緑地認定制度等)

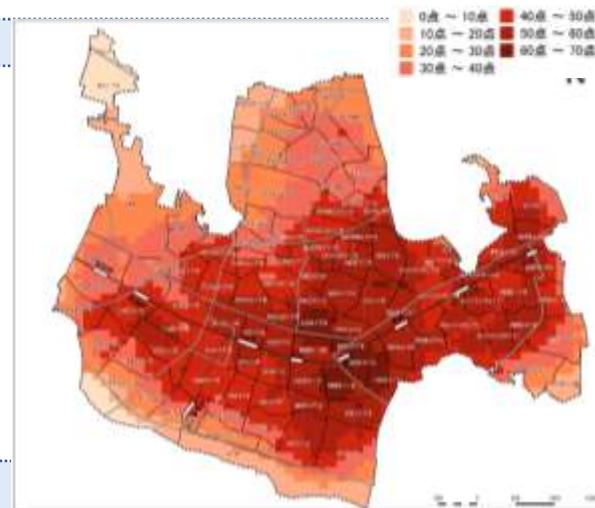
■都市づくりの課題 【地域活性化分野】

○現行計画における基本的な方針

- 方針①：にぎわいと活力ある中心市街地に向けて、都市基盤・交通基盤の整備を図ります。
 方針②：地域のつながりや地域資源を生かした、ふれあいと憩いの場づくり、街並みづくりを進めます。
 方針③：生きがいをもって住み続けるため、就業の場となる様々な産業を育成し、職住近接のまちづくりを進めます。

○「地域活性化」に関する現況・主な取組と成果 ※「調布市の基礎データ」より

- ◇平成9（1997）年から平成29（2017）年までの20年間において、住宅用地・商業用地等が増加。（参考資料_P15 参照）
- ◇市街地開発事業は6地区が都市計画決定されており、全て事業完了。（参考資料_P17 参照）
- ◇住宅土地統計調査によると、空き家率は2.2%と他の市区と比べて低い水準。（参考資料_P27 参照）
- ◇平成11（1999）年から平成28（2016）年までの17年間において、第3次産業の総従業者数の増加。（参考資料_P50 参照）
- ◇年間商品販売額は近年上昇傾向、製造品出荷額は一貫して減少傾向。（参考資料_P51 参照）
- ◇国道20号沿道及び京王線沿線を中心に様々な都市機能が立地。（参考資料_P53~57 参照）



調布市全域の利便性評価

○継続的に対応すべき課題

<方針①関連>

- ✓利便性の高い生活環境の維持・充実
- ✓魅力ある駅周辺地域の形成に向けた都市基盤整備

<方針②関連>

- ✓地域資源を活かしたふれあいと憩いの場づくり

<方針③関連>

- ✓職住近接のまちづくりの推進
- ✓多分野連携による産業の活性化

②新たな課題（上位計画や社会情勢の変化に伴う課題）

<上位関連計画に基づく政策的課題>

（総合計画，その他関連計画を参考に作成）

- ✓都市構造の変化（京王線地下化，中央リニア新幹線，外郭環状道路）を踏まえたにぎわいの創出と交流人口の増加
- ✓全体の活力と市民生活の質の向上
- ✓市の活力向上に資する産業の保全・育成や，空き家を利活用するための土地利用規制のあり方の検討
- ✓鉄道敷地の活用や都市基盤の整備による快適な歩行空間・交流空間の創出
- ✓コミュニティサイクルの運営等による新たな交通手段の構築

<多摩川流域における広域的視点による課題>

（近隣自治体の都市マス等を参考に作成）

- ✓隣接市との拠点の一体的な整備や効率的な都市運営の実現
- ✓市役所庁舎やコミュニティセンターにおける行政サービス機能の連携

<新たな政策課題・まちづくりのトレンド>

（国資料等を参考に作成）

- ✓コンパクト（集約連携）なまちづくりの推進
- ✓既存ストックの活用促進
- ✓居心地がよく歩きたくなるまちなかの形成
- ✓オープンスペースの有効活用・充実
- ✓職住近接のまちづくりの推進
- ✓官民連携によるまちづくり，エリアマネジメントの推進
- ✓地域資源を生かした観光施策の推進